








(肢体不自由)

各教科等チェックシート

学部・学年 氏名
小学部〇年 ○○ ○○

小学部・小学校版

教科等	内容	知的障害がある			知的障害がない						備考			
		小学部(段階)			小学校(学年)						具体的な指導内容	指導場面 教科・単元等		
		1	2	3	1	2	3	4	5	6				
生活 (特別支援学校) 生活科 	ア 基本的生活習慣 イ 安全 ウ 日課・予定 エ 遊び オ 人との関わり カ 役割 キ 手伝い・仕事 ク 金銭の扱い ケ きまり コ 社会の仕組みと公共施設 サ 生命・自然 シ ものの仕組みと働き	●	●	●									朝の会や国語・算数(友達や教師との関わり、1日の活動を知る、あいさつ、呼名に対する返事、日時、天気など)、帰りの会(楽しかったことの発表、明日の予定 等)	朝の会 帰りの会 身体づくり 課題学習
国語 ※(特)2段階 同観点 国語 	知識及び技能 A 聞くこと・話すこと B 書くこと C 読むこと	●	●	●										
社会(小学校3~6年)														
算数 算数 	A 数と計算 B 図形 C 測定 D データの活用 (数学的活動)	●	●	●									色や形の弁別、大小、一対一対応、長短、お金、時間 等	課題学習
理科(小学校3~6年)	A 物質・エネルギー B 生命・地球	●	●	●										
生活(小学1・2年)														
音楽 音楽 	A 表現 B 鑑賞	●	●	●										音楽朝の会
図画工作 図工 	A 表現 B 鑑賞	●	●	●									絵の具や粘土、紙等の感触を味わう、道具を使って物を作る	学校行事 制作活動
家庭(小学校5・6年)	A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境													
体育 体育 	A 体づくり運動遊び(小2と3段階 体づくり運動) B 器械・器具を使つての遊び(2・3段階 器械・器具を使つて 走・跳の運動遊び(2・3段階 走・跳の運動)) D 水遊び(2・3段階 水の中での運動) E ポール遊び(2・3段階 ポールを使った運動やゲーム、小学校ゲーム) F 表現遊び(2・3段階 表現運動、小学校 表現リズム遊び) G 保健 *小学校 項目なし	●	●	●									リズム運動(歩く、止まる、走る、四つばい等)バランス運動(マットや平均台、跳び箱等の器具を使い、身体をダイナミックに使う)	身体づくり 学校行事
外国語 外国 	知識及び技能 思考力・判断力・表現力等	●	●	●										外国語
外国語活動 ※(1)														
特別の教科 道徳 ※(2)														
総合的な学習の時間														
特別活動														

記事者から
各教科の「目標・内容一覧表」を見ながら、段階を設定することができた。設定する目安としては、段階の内容がおおよそ達成できている場合は、次の段階をチェックするようにした。設定したシートを別の担任にも見てもらい、複数で確認するようにした。

記事者から
学習指導要領各教科の目標及び内容一覧表のリンクが貼られていてすぐに見ることができ、便利だった。

記事者から
シートの作成は一人で行ったが、作成後、担任間で改めて実態を把握することができた。段階をチェックした後、具体的に指導する内容や、どの場で行うかについて話し合うことができた。

※(1) 「外国語活動」：知的特別
※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる(原則同一、他配慮事項あり。)

(肢体不自由) 自立活動フローシート

学部・学年 小学部 ○年 氏名 ○○ ○○

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさについて情報収集

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 睡眠のリズムは安定している。 自分の障害を概ね理解し、得意なことや苦手なことを把握している。 登校後、毎日自分で検温し、体調を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人の体調等によって活動に消極的になったり、周りのことに気がいき、自分の身体に集中できなかつたりすることがある。 初めての活動には少し不安そうにする様子も見られるが、自分のペースで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉でのやりとりができ、教師や友達に自分から話しかけることが多い。 相手の気持ちを理解しようとする様子が見られる。 他者のわかりやすい表情やしぐさなどから感情を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集会等では、みんなに聞こえるように大きな声で全体の前で発表することができる。 1日の予定を理解し、次にやることなどに見直しをもつことができる。 視覚や聴覚、触覚等の感覚を使って、物事を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指先を器用に動かしながら粘土を好きな形に成型することができるようになった。 椅子座位やあぐら座位ができるが、左側に傾くことが多い。 支えがあればよりよい姿勢で立位姿勢を保持することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて会う人には緊張する様子も見られるが、慣れてくると自分から話しかけられる。 少しずつではあるが、自分の気持ちや要求を相手に伝えることができるようになってきた。

いくつかの指導目標の中で優先する目標として

3年後にめざす姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分で身の回りのことを行う力。 国語・算数や生活などの基礎的な力と買い物などの生活に生かせる力。 外出先で安全に気を付けながら車椅子を操作したり、クラッチを使用して安定した歩行をしたりする力。
----------	--

長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの暮らしや自然について興味関心をもつことができる。 小学校低学年で学習する漢字を含む文を読んだり、書いたりすることができる。 繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算、かけ算ができる。 クラッチを使用し、安定した姿勢で校内を1周歩くことができる。
----------	---

指導目標を達成するために必要な項目の選定

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定した項目	①生活のリズムや生活習慣の形成 ②病気の状態の理解と生活管理 ③身体各部の状態の理解と養護 ④障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤健康状態の維持・改善	①情緒の安定 ②状況の理解と変化への対応 ③障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	①他者とのかかわりの基礎 ②他者の意図や感情の理解 ③自己の理解と行動の調整 ④集団への参加の基礎	①保有する感覚の活用 ②感覚や認知の特性への対応 ③感覚の補助及び代行手段の活用 ④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握 ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	①姿勢と運動・動作の基本技能 ②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ③日常生活に必要な基本動作 ④身体の移動能力 ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	①コミュニケーションの基礎的能力 ②言語の受容と表出 ③言語の形成と活用 ④コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤状況に応じたコミュニケーション

コピーして利用を

選定された項目を関連付けて具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 排泄では、トイレまで自分で移動したり、車いすの乗降や手すりを支えながら立位姿勢を維持したりするなどできるだけ自分で取り組む。 登校後の荷物整理では、自分の荷物をロッカーに入れたり、車いすを操作して自分で移動したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 10行程度の文を自分で考えて日記を書くことができる。 九九の順序をばらばらで唱えたり、九九を使って、問題を解いたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> クラッチを使った立位歩行で、足裏を床面につくことやひげ腰にならないようにすることを自分で意識しながら歩行ができる。
----------	---	---	---

記載者から
「長期目標」→「具体的な指導内容」→「選定した項目」の順の方が記入しやすいと思った。記入後に、以上3つの記入欄の記載内容の整合性を確認すればよいと思う。関連する項目をつなげる際、主たる項目だけで良いかとも思ったが、自分が考えた全ての項目を選び、つないでみた。

記載者から
自校で現在使用している書式を参考に、フローシートを作成したため、記入は難しくなかった。このシートでは自立活動6区分27項目と関連づけて具体的な指導内容を検討することができたので、より自立活動の27項目を意識することができた。経験の浅い教員にとっても使いやすいと感じた。

指導場面(各教科・単元名)	教科等	単元名等	教科等	単元名等	教科等	単元名等
		学校教育全体で取り組む		課題学習(国語・算数)		自立活動(身体づくり)

教科・単元に分けて記載することが難しかったため、上記のように記載した。

(肢体不自由)

小学部 自立活動 (身体づくり) 学習指導案

授業者 ○○ ○○
日 時 令和元年○○月○○日
場 所 自立活動室
児童数 1名

1 単元名 「自分の身体について考えよう！」

2 単元設定の理由

(1) 生徒 (幼児・児童) の様子について

本児童は、小学部○年生の男子児童である。日常生活では、主に車いすを使用しており、車いす上での座位姿勢は安定している。指先の細かい動きは苦手だが、文字の運筆や箸を使用しての食事、身の回りの整理整頓など、概ね自分で行うことができる。移動の際は、自分で車いすの乗降を行い自操したり、短い距離であれば不安定さはあるが、装具やクラッチを用いた立位歩行を行ったりすることができる。コミュニケーション面では、言葉でのやりとりができるが、相手に伝えづらいこと等は自分から言わなかったり、相手に伝えずに我慢してしまったりすることがある。また、会話でのやりとりでは、話すことを頭の中で整理することに意識が向き、話しが中断されることがあるが、クラスの友達や学級担任などに対しては、話を聞き流すことを避けるように努めている。

授業者から

自立活動フローシートの「具体的な指導内容」から「指導場面」を関連させて記載した。自立活動6区分 27項目で「具体的な指導内容」を考えたことで、児童が自分で選択したり、自分の気持ちを伝えたりすることの大切さに気が付いた。

(2) 単元に

これまでの取り組みや、本人が必要とする力や身につけてほしい資質を考えた。一つ目は、活動のねらいを理解し、自分の身体について深く考えたり、目標を自分で設定したりしながら身体づくりに取り組んでほしいということである。「こうなりたい！」等の自分の思いが少しずつ芽生えつつある中で、自分の身体の特徴について知ったり、深く考えたりすることで自分の身体の調子や状態を考え、自己管理ができるようになってほしいと考える。二つ目は、様々な場面で自分から気持ちや考えを相手に伝えられるようになってほしいということである。毎日行われる「身体づくり」の時間の中で、教師に自分の気持ちや考えを伝える場面を意図的に多く設定することで、相手に伝える経験を積んだり、伝わる喜びなどを感じたりし、自己肯定感を育みながら自信がもてるようになってほしいと考える。

上記の二つの姿を意識しながら学習に取り組むことで、本人が受け身ではなく自分から考えたり思いを伝えたりしながら、主体的に活動に取り組めるようになってほしいと考える。また、この単元で、本人が必要とする力や身につけてほしい資質を考えた。一つ目は、活動のねらいを理解し、自分の身体について深く考えたり、目標を自分で設定したりしながら身体づくりに取り組んでほしいということである。「こうなりたい！」等の自分の思いが少しずつ芽生えつつある中で、自分の身体の特徴について知ったり、深く考えたりすることで自分の身体の調子や状態を考え、自己管理ができるようになってほしいと考える。二つ目は、様々な場面で自分から気持ちや考えを相手に伝えられるようになってほしいということである。毎日行われる「身体づくり」の時間の中で、教師に自分の気持ちや考えを伝える場面を意図的に多く設定することで、相手に伝える経験を積んだり、伝わる喜びなどを感じたりし、自己肯定感を育みながら自信がもてるようになってほしいと考える。

授業者から

今回自立活動フローシートで選定した項目の中から、今単元では、「健康の保持」の③④、「心理的な安定」の②③を特に意識し、目標を設定した。選定し、自分で考えたり、活動を選択したりする力、また自分の気持ちを伝える力を身に付けることが必要だということが分かり、本単元の目標に設定した。

3 単元 (題材) の目標

- 自分の身体の特徴や状態について理解したり、教師に自分の気持ちを伝えたりすることができる。
- 学習目標を理解し活動内容を自分で考えたり、自分の身体の変化を感じたりすることができる。
- クラッチを使った立位歩行では、足裏を床面につくことや股関節前部を伸ばすことを自分で意識しながら歩行することができる。